

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法評価学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部2年	学 期	後期	教室名	5F機能訓練室
担 当 教 員	小嶋 高広				
実務経験と その関連資格	理学療法士として金沢整形外科クリニック(滋賀県)に7年間、丸太町リハビリテーションクリニック(京都府)に3年間勤務。 主に整形外科疾患・スポーツ障害を有する症例患者を対象とした外来リハビリテーションに従事。年間100症例以上を担当。 野球やゴルフ領域の研究発表・論文が複数。認定理学療法士(運動器)、修士号(スポーツ健康科学)取得。				
《授業科目における学習内容》 各評価の意義、目的を理解し、正確に実施することができる。必要な評価項目を想起することができる。 各評価手技の意義、目的、種類などを理解し、正確に実施することができる。 評価対象者の問題点の抽出を行うことができる。					
《成績評価の方法と基準》 最終評価＝定期試験×50%＋実技試験×50%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 教科書: 理学療法評価学 松澤正・江口勝彦 著 金原出版					
《授業外における学習方法》 いろいろな相手と練習をしていくこと。 慣れてきたら、環境やいろいろな状態を想定して実施しておく、より臨床に即した知識・技術が身につくと思います。					
《履修に当たっての留意点》 臨床に直結する内容になります。周りと協力をしながら身につけてください。 お互いに検査し合い、相手が不快にならないようにフィードバックすることも練習になります。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	なぜ評価が必要なのかを説明できる	教科書 プリント	予習:教科書の第1章	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、評価学総論			
第2回	授業を通じての到達目標	問診などのポイントを理解する	教科書	予習:教科書の第1章	
	各コマにおける授業予定	第1章 一般的評価事項			
第3回	授業を通じての到達目標	伝道路についてのおさらいができる 感覚の種類が説明できる	教科書	予習:教科書の第7章	
	各コマにおける授業予定	第7章 知覚検査			
第4回	授業を通じての到達目標	感覚検査を体験する	教科書	予習:教科書の第7章	
	各コマにおける授業予定	第7章 知覚検査			
第5回	授業を通じての到達目標	感覚検査・判定ができる	教科書	予習:教科書の第7章	
	各コマにおける授業予定	第7章 知覚検査			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	反射検査の意味がわかる	教科書	予習:教科書の第8章
	各コマにおける授業予定	第8章 深部腱反射・病的反射		
第7回	授業を通じての到達目標	反射検査と障害をリンクできる	教科書	予習:教科書の第8章
	各コマにおける授業予定	第8章 深部腱反射・病的反射		
第8回	授業を通じての到達目標	筋緊張の種類を説明できる	教科書	予習:教科書の第10章
	各コマにおける授業予定	第10章 筋トーン検査		
第9回	授業を通じての到達目標	筋緊張検査を実施できる	教科書	予習:教科書の第10章
	各コマにおける授業予定	第10章 筋トーン検査		
第10回	授業を通じての到達目標	協調性について説明できる	教科書	予習:教科書の第17章
	各コマにおける授業予定	第17章 協調性検査		
第11回	授業を通じての到達目標	協調性の検査ができる	教科書	予習:教科書の第17章
	各コマにおける授業予定	第17章 協調性検査		
第12回	授業を通じての到達目標	バランス検査ができる	教科書	予習:教科書の第9章
	各コマにおける授業予定	第9章 バランス検査		
第13回	授業を通じての到達目標	リスク管理した上でバランス検査ができる	教科書	予習:教科書の第9章
	各コマにおける授業予定	第9章 バランス検査		
第14回	授業を通じての到達目標	テストの概要がわかる	教科書	予習:教科書の第18章
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(Brunnstrom test)		
第15回	授業を通じての到達目標	教科書を見ながら実施できる	教科書	予習:教科書の第18章
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(Brunnstrom test)		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法評価学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部2年	学 期	後期	教室名	5F機能訓練室
担 当 教 員	小嶋 高広				
実務経験とその関連資格	理学療法士として金沢整形外科クリニック(滋賀県)に7年間、丸太町リハビリテーションクリニック(京都府)に3年間勤務。 主に整形外科疾患・スポーツ障害を有する症例患者を対象とした外来リハビリテーションに従事。年間100症例以上を担当。 野球やゴルフ領域の研究発表・論文が複数。認定理学療法士(運動器)、修士号(スポーツ健康科学)取得。				
《授業科目における学習内容》 各評価の意義、目的を理解し、正確に実施することができる。必要な評価項目を想起することができる。 各評価手技の意義、目的、種類などを理解し、正確に実施することができる。 評価対象者の問題点の抽出を行うことができる。					
《成績評価の方法と基準》 最終評価＝定期試験×50%＋実技試験×50%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 教科書: 理学療法評価学 松澤正・江口勝彦 著 金原出版					
《授業外における学習方法》 いろいろな相手と練習をしていくこと。 慣れてきたら、環境やいろいろな状態を想定して実施しておく、より臨床に即した知識・技術が身につくと思います。					
《履修に当たっての留意点》 臨床に直結する内容になります。周りと協力をしながら身につけてください。 お互いに検査し合い、相手が不快にならないようにフィードバックすることも練習になります。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	教科書を見ながら実施できる	教科書	予習:教科書の第18章	
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(Brunnstrom test)			
第17回	授業を通じての到達目標	教科書を見ずに実施できる	教科書	予習:教科書の第18章	
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(Brunnstrom test・上田法)			
第18回	授業を通じての到達目標	教科書を見ずに実施できる	教科書	予習:教科書の第18章	
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(Brunnstrom test・上田法)			
第19回	授業を通じての到達目標	教科書を見ながら実施できる	教科書	予習:教科書の第18章	
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(SIAS)			
第20回	授業を通じての到達目標	教科書を見ながら実施できる	教科書	予習:教科書の第18章	
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(SIAS)			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 2 1 回	授業を通じての到達目標	教科書を見ずに実施できる	教科書	予習:教科書の第18章
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(SIAS)		
第 2 2 回	授業を通じての到達目標	教科書を見ずに実施できる	教科書	予習:教科書の第18章
	各コマにおける授業予定	第18章 片麻痺機能検査(SIAS)		
第 2 3 回	授業を通じての到達目標	意識障害に対する検査の判定ができる	教科書	予習:教科書の第20章
	各コマにおける授業予定	知能・意識障害に対する検査		
第 2 4 回	授業を通じての到達目標	知能検査を実施できる	教科書	予習:教科書の第20章
	各コマにおける授業予定	知能・意識障害に対する検査		
第 2 5 回	授業を通じての到達目標	脳の解剖(障害部位と症状)について説明できる	教科書	予習:教科書の第19章
	各コマにおける授業予定	第19章 脳神経検査		
第 2 6 回	授業を通じての到達目標	脳の解剖(障害部位と症状)について説明できる	教科書	予習:教科書の第19章
	各コマにおける授業予定	第19章 脳神経検査		
第 2 7 回	授業を通じての到達目標	検査を実施できる	教科書	予習:教科書の第20章
	各コマにおける授業予定	第20章 高次脳機能検査		
第 2 8 回	授業を通じての到達目標	検査を実施できる	教科書	予習:教科書の第20章
	各コマにおける授業予定	第20章 高次脳機能検査		
第 2 9 回	授業を通じての到達目標	いろいろな人に対して検査が正確に実施できる	教科書	予習:各検査方法のおさらい
	各コマにおける授業予定	各種検査のまとめ、応用		
第 3 0 回	授業を通じての到達目標	いろいろな状態の人の判定ができる	教科書	予習:各検査方法のおさらい
	各コマにおける授業予定	各種検査のまとめ、応用		